

農業委員会だより



愛宕神社例祭 マンドリ神事(網野町網野)

7月24日、網野神社では、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、3年ぶりに境内社愛宕神社の例祭が開催され、火のついた麦わらを振り回す「マンドリ」が執り行われ、地域の防火・防災を祈願する神事が行われました。

● 目 次 ●

2~3P **農を語る** 合同会社tangobar(丹後バル)
関 奈央弥さん

8P **担当区域一覧表** 担当エリアでがんばります。

4~7P **7月1日から新体制スタート!**
新農業委員・推進委員紹介

9~10P **意見書の回答**

【現在の取り組みについて】
2020年に「合同会社 tangobar（丹後バル）」を起業し、現在は主に2つの事業に取り組んでいます。
1つ目は、缶詰の商品開発事業です。与謝野町のリフレ農産加工施設と連携し、自社商品の企画開発

まっわるストーリー」を伝える事の可能性に気付きました。
それから月に1回夜行バスに乗って丹後に帰り、丹後の食の現場を訪ねさせていただくようになりました。漁師さんや農家さんのところなど生産現場を訪ねさせていただく度に、それぞれの生産現場で、食べ物と健康の関係や、食べ物と環境の関わりなど、食にまつわる様々な学びがありました。
この経験より、地元丹後の食の可能性に気付き、丹後の食を通して、管理栄養士として食の知識を活かして人の役に立ちたいと考えるようになりました。

そんな中、ご縁があり京都市内の缶詰の商品開発を行うベンチャー企業に転職し、1年3ヶ月勤務して缶詰の商品開発について学び、丹後の生産者さんとコラボした缶詰商品を開発しました。
缶詰ベンチャーでの勤務を経て、丹後の生産現場に近いところで、食の取り組みを行うため地域おこし協力隊としてUターンしたのが2018年の事でした。

発及び、地域の生産者さんや料理人の方、加工事業者の方などと連携し、商品開発の支援に取り組みしております。全て手詰めで製作作業を行う小ロットでの商品開発に取り組んでいます。小ロット故に、扱う食材は様々です。魚介類やジビエ、卵や鶏肉、牛肉、へしこなど、地域の様々な食材を缶詰の加工特性を活かしてレシピを考案し、試作を重ねて商品開発に取り組んでいます。
2つ目は、食の体験プログラムの企画運営です。海の京都エリアの農家さんや漁師さん等と連携させていただき、生産現場でしか味わえない食体験の企画運営に取り組んでいます。こちらの体験プログラムには、地元だけでなく京阪神の方からもご参加いただき、お子さんと一緒にご家族で食に触れていただいたり、ご友人と一緒に食に触れていただいたりしております。

丹後バルでは、「つくる人と食べる人の距離を近づける」という目標を掲げ、缶詰の商品開発と食の体験プログラムに取り組んでいます。丹後地域には、農業、漁業、酪農など、様々な分野で食の生産に関わる方がおり、その食材を活かして調味料やお酒、様々な加工



【食の体験プログラムの様子（てんとうむし畑）】 【丹後バルHP】



文／関 奈央弥さん

品などをつくる方や、その食材や調味料、お酒を活かして素晴らしい料理を作っている料理人の方、「食」で活躍されている、様々なプロフェッショナルの方々がたくさんいらっしゃる丹後地域。この食の可能性に溢れた丹後地域は、食を学ぶには最高の環境が揃っているのではないかと感じています。
これからは丹後の多様な食環境から食について学び、食を探求し、食を通じた事業に取り組んでいきたいと思っています。

農を語る

つくる人と食べる人の距離を近づける

合同会社 tangobar（丹後バル）

代表社員

関 奈央弥さん

【管理栄養士になるまで】
高校生の時、「ずっと続けていたサッカーに関わる仕事をしたい」と考え、「スポーツ栄養」という領域がある事を知り、「食事を通してスポーツ選手を支える、スポーツ栄養士になりたい。」そんな思いから、管理栄養士を志すようになりました。また、「人は生きていく限り、必ず食べないと生きていけない。」そんなところにも、食の専門家の可能性や面白みを感じました。
大学で栄養学を学んでいる中で、日本での生活習慣病の増加及び日本の医療費の増加の問題に触れ、日々の食事を通して健康な体づくりに取り組むことの重要性を感じました。食事を通した健康づくりにどのように取り組むか考えた時、子どもたちへの食育に取り組むことで、大人になってから健康的な食習慣を送る人が増えていくのではないかと考え、学校栄養士を志すようになりました。
大学卒業後は、東京都の小学校にて5年間栄養士として勤務し、日々子どもたちと食育に取り組んでいました。

【Uターンのきっかけ】
小学校での食育実践に取り組む中で、行動変容に繋がる食育の重要性を感じる経験がありました。「小松菜にはカルシウムが含まれ

ているから食べた方がよいよ。」そんな風に食の知識を伝えても、子どもたちはなかなか食べるようになってくれません。しかしある時、地産地消に取り組む中で、東京都の小松菜農家さんの元を訪ねさせていただき、「農家さんが、どこで、どんな風に、どんな思いで野菜を作っているか」という事を取材させていただきました。そして学校に戻り、その農家さんの野菜を給食で使う度に、子どもたちに小松菜ができるまでの生産者さんの工夫や思いなど、食材にまつわるストーリーを伝えるようになりました。そうすると、今まで小松菜が嫌いだった子が、食べるようになったという大きな変化がありました。この時に、「食材に



【開発した商品（缶詰の一部）と体験プログラムのパンフレット】

農業者年金に加入しましょう

- 1 農業従事者なら広く加入できます
(20歳以上65歳未満、国民年金第1号被保険者、年間60日以上農業に従事)
- 2 積立方式の確定拠出型年金です
(加入者・受給者数の増減に左右されない、安定した制度です)
- 3 終身年金であり、年金は生涯受給できます
(80歳までにお亡くなりになった場合には、死亡一時金をお支払いします)
- 4 公的年金であるため、税制面で大きな優遇措置があります
(支払った保険料の全額が社会保険料控除の対象になり、所得税・住民税等の節税になります)
- 5 通常加入なら、保険料の額は自由に選べ、いつでも見直しできます
(月額2万円から6万7千円まで、千円単位で選択できます)
- 6 政策支援加入なら、保険料の国庫補助があります
(一定の要件を満たした担い手【認定農業者・認定就農者等】は、保険料の補助が受けられます)



◎加入に係るお問い合わせは、お近くの農業委員まで!!

加入推進部長 矢野鈴枝 委員

会長就任あいさつ

この度、任期満了により京丹後市農業委員会委員改選が行われました。令和4年7月1日に市長から18名の農業委員が任命され、農業委員会から農地利用最適化推進委員32名が委嘱されました。私は、同日開催の総会において会長に再任されました。

今回の委員改選において過半数の方々が初めて委員となりました。初めて委員になられた皆様と、前期に続いて委員になられた皆様とともに委員会活動に取り組んでまいります。

さて、農業情勢はもとより社会情勢におきまして未だ終わりの見えない新型コロナウイルス感染症拡大、混迷を極める国際情勢により市民生活への影響も大きくなってまいりました。

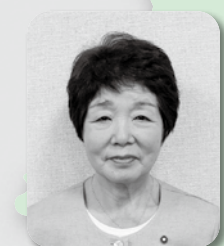
全国的な農業問題として、農業者の高齢化や担い手不足、鳥獣被害や遊休地の拡大に加え社会情勢の影響による燃料費、生産資材費等の高騰により農業経営をさらに圧迫しております。

このような状況の中でも農業委員会では農業を地域の重要産業として発展させ、農業者の所得向上を図るために「農地利用の最適化と農地集積」「遊休農地の解消」「京力農場プランの実質化」「新規就農者の発掘」など様々な問題に取り組んでおります。

京丹後市の農業形態は水田を中心に国営農地、砂丘、果樹、畜産などバラエティーに富んでおり京都府最大の農業地帯です。この特色を生かしつつ農業を発展させるために京都府、京丹後市など関係機関と密に連携し取り組んでいく所存ですので、皆様の一層のご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

京丹後市農業委員会 会長 梅田 和男

農地の許認可に
関することは、
私たちに相談してください。



久 川瀬 明美



久 袖長 広之



久 竹中 茂



久 職務代理
瀬戸 牧男



網 引野 禎人

久美浜



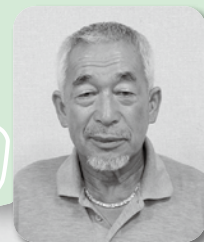
久 仲村 啓一



網 会長
梅田 和男



峰 安達 操



峰 中井 敏博

7月1日から農業委員 18名の新体制でスタート!!

(農業委員の定数は19名であり、1名欠員となっているため、主に弥栄町域を担当する農業委員を募集中です。)

丹後



丹 岡田 憲孝



丹 日方 洋



網 上田 茂夫

弥栄



弥 藤原 裕行



弥 矢野 鈴枝



峰 服部 英樹

峰山

大宮



大 高杉 和男



大 水無瀬 宏



大 青木 美恵

農業委員の主な仕事

- 農地法に基づく各種申請の審議
- 京力農場プラン策定や見直しなど地域の話し合い活動に係る支援
- 農業委員会の運営と各種広報活動など

峰…峰山 大…大宮 網…網野

丹…丹後 弥…弥栄 久…久美浜

地域まわりをしています。
農地の利用や遊休農地の問題など、
農業課題について、
一緒に考えましょう。



- ## 推進委員の 主な仕事

- 管内遊休農地発生防止・解消活動
- 京力農場プラン策定や見直しなど地域の話し合い活動に係る支援
- 農地の集積・集約化に係る活動
- 新規就農に関する活動

●峰…峰山 ●大…大宮 ●網…網野
●丹…丹後 ●弥…弥栄 ●久…久美浜

意見書に対する回答

令和3年度に市長に提出した「農地等の利用の最適化の推進に関する施策についての意見書」に対する回答をいただきましたので、一部抜粋して紹介します。

1. 集落農業の環境

農業・農地の持つ多面的機能は、食料の安定供給、国土保全、水資源の涵養、大気浄化、温暖化抑制などの環境保全や景観形成、生物多様性の保全、社会的・文化的価値の継承など自然環境はもちろん社会的環境にも大きく寄与しており、多面的機能が維持できないと地域住民の生活環境の悪化が懸念されることから次世代を担う意欲ある担い手が将来にわたり活躍できるように環境を早期に整えること。

回答：農業振興課

京力農場プランの実質化の推進については、市内の全集落で

策定がされるよう、農業委員、農地利用最適化推進委員とともに積極的に集落に入り引き続き行っていくます。

2. 担い手への農地の集積・集約化

京力農場プランの実質化と併せて農地中間管理事業の活用促進を図り、農地の集積・集約化を図ること。

回答：農業振興課

京力農場プランの策定については、農業委員、推進委員とも連携をし、全集落での策定を目標として地域に入り推進を行っているところです。その中で、農地中間管理事業についても紹介し、推進を図っています。農地中間管理事業を活用した農地の集積については、国の担い手への農地流動化対策として積極的に活用するよう取り組まれており、本市は府内でも最多の活用実績があります。近年では京力農場プランの策定に比例し、水田での活用も多くなっています。

3. 担い手支援

認定農業者や認定新規就農者はもちろん、中核的担い手等に対する農業用機械更新時の支援を図ること。

中核的担い手等に対する農業用機械導入の支援は、従来から国・府等の補助事業も活用しながら、引き続き支援を継続していきたいと考えています。

回答：農業振興課

中核的担い手等に対する農業用機械導入の支援は、従来から国・府等の補助事業も活用しながら、引き続き支援を継続していきたいと考えています。

4. 新規就農支援・集落営農と法人化の推進

持続的農業の発展のため、集落営農の組織化と法人化の推進及び設立後にも支援を行うこと。また、並行して定年等帰農者など、多様な担い手の確保と新規就農者の養成、呼び込み、定着化を図ること。

回答：農業振興課

地域の農業者が参画した集落営農組織の必要性は認識しており、また、持続的に行うためにはより経営感覚をもった法人化への取り組みに対しても支援を継続していきたいと考えています。府においても、集落連携100ha農場づくり事業を新設し、将来の広域法人化への道標となるモデルの確立を行っており、その事業の活用も通じて市としても支援をしていきたいと考えています。

また、令和3年度より、市単独事業として、既存小規模農家へは小規模農業者支援事業を新

設し、営農継続への支援の強化を行うとともに、U・ターン者・定年帰農者支援事業を新設し、新たな参画者への支援を行っていくなど、農業者の裾野を広げる施策を行っていききたいと考えています。

5. 野生鳥獣被害対策の推進

防護柵等設置事業の計画的実施による地元負担の軽減と、捕獲個体の埋設処理支援事業の拡充及び捕獲個体処理施設の継続検討を図ること。森林環境譲与税基金を活用して山際の環境整備を行ない、バッファゾーンの確保を図ること。

回答：農林整備課

広域化する鳥獣被害に対して、これまでから国の交付金を活用し、防護柵の設置に係る地元支援を行っています。防護柵の設置につきましては、平成29年度から令和元年度まで地元負担をお願いしておりましたが、令和2年度からは、負担なく設置することができました。令和4年度以降につきましても、計画的な事業実施等に

【農業委員・農地利用最適化推進委員担当区域一覧】			
町	農業委員氏名	推進委員氏名	担 当 区 域
峰山町	安達 操	谷口 幸作	安、西山、小西、新治、杉谷
		嶋田 喜一	長岡、菅
	中井 敏博	中村 浩典	久次、鱒留
大宮町		砂原 光雄	二箇、五箇
	服部 英樹	多賀野 和宏	新町、荒山、内記
		室田 英男	丹波、矢田、橋木、石丸、赤坂
網野町	高杉 和男	堀 和之	〇大野、善王寺
	青木 美恵	鈴木 昌知	奥大野、上常吉、下常吉
	水無瀬 宏	田崎 喜芳	三重、森本、谷内、三坂
丹後町		中川 秀雄	明田、延利、五十河、新宮、久住
		中西 眞一郎	周枳、河辺
	梅田 和男	山崎 能宏	網野、浅茂川、下岡、小浜
弥栄町	上田 茂夫	城下 佳郎	島津、仲禅寺、掛津、遊、三津
	引野 禎人	引野 都夫	高橋、公庄、郷、生野内、切畑、新庄
		高田 博史	加茂川、岡田、中立、温泉、下和田、上野、俵野、溝野、浜詰、磯
久美浜町	岡田 憲孝	中江 正晴	間人、砂方、竹野、宮、牧ノ谷、願興寺、家ノ谷、筆石、乗原、此代、三宅、大山
	日方 洋	金羽 廣明	徳光、成願寺、岩木、是安、吉永、矢畑
		田中 文夫	平、井上、中野、井谷、畑、遠下、鞍内
久美浜町		三野 廣海	袖志、尾和、中浜、久僧、上野、谷内、上山
	(欠員)	坪倉 正巳	吉澤、芋野、堤
	矢野 鈴枝	大江 秀和	溝谷、外村、等楽寺、中山、中津、田中、野中、吉野、霰、須川、来見谷、大谷、味土野、川久保
久美浜町	藤原 裕行	平林 善典	船木、黒部、小田、国久、井辺
	袖長 広之	坪倉 友二	鳥取、木橋、和田野
		竹中 峰明	向町、十楽、仲町、土居、東本町、西本町、新町、新橋、栄町、神谷、河梨、〇馬地、奥馬地、〇三谷、奥三谷、甲坂、栃谷
久美浜町	瀬戸 牧男	松本 義雄	甲山、浦明、長柄、神崎、鹿野
		山添 善明	市野々、布袋野、畑、金谷
		岡下 博之	市場、出角、須田、新庄
久美浜町	竹中 茂	岩 狭 真	橋爪、海士、油池、西橋爪、坂井、友重、品田、新谷、谷、芦原、島
	仲村 啓一	岡田 常男	尉ヶ畑、奥山、二俣、小桑、佐野甲、佐野乙、佐野丙、安養寺、野中
		野村 拓生	郷、円頓寺、坂谷、長野、竹藤、女布、丸山、永留
久美浜町	川畔 明美	奥田 功一	壺分、大井、関、三原、三分、平田
		瀬崎 勇	箱石、葛野、湊宮、大向、河内、蒲井、旭

9

8

より、負担が生じることのないよう努めていきたいと考えています。

捕獲個体の埋設処理につきましては、府の交付金を活用しながら支援を行っており、今後とも猟友会と協議の上で支援を継続していきたいと考えています。

捕獲個体処理施設につきましては、新たな処理方法も含めた情報収集等を行いながら、検討していきたいと考えています。

山際の周辺整備においては、森林環境譲与税等を活用し市森林環境整備促進対策事業補助金交付要綱を設け、地区要望等に応じて竹林・里山林等の伐採及び再生整備の支援を行っています。なお、森林環境譲与税並びに市森林環境譲与税基金については、森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律の規定に基づき、適正に使用していくこととしています。

2. 農業生産基盤の環境

本市の農地は典型的な中山間地域の脆弱な生産基盤であり、水田においては小区画で排水路も未整備のものも多く作業効率の低下や生産コストの増大となっていることから、ほ場整備等の土地改良事業の導入や小規模のまち直し等、小規模基盤整備事業にも積極的に取り組み、生産環境を整えること。

回答：農林整備課

本市の水田については、昭和初期に開発された1反区画や農道幅員の狭い地域があります。ほ場整備事業は、受益者負担及び事業実施に向けた地権者調整など地域の協力がなく、事業化できません。現在は、地区要望を提出されている地域を中心に事業化に向け、調整を図っているところですが、農地、未整備排水路の整備要望以外にも施設の老朽化等による更新要望も増えています。

今年は、多面的機能支払交付金事業実施地域や地区からの要望事項の回答時に、ほ場整備事業の紹介を行いました。今後も、完了地区の状況報告などわかりやすい事業説明を進めていきたいと考えています。

また、京力農場プランや中間管理事業との連携を図り、持続可能な農業経営、農地保全等に繋がる事業の実施を推進していきます。

3. 新型コロナウイルス感染症の影響による農業環境

新型コロナウイルス感染症拡大による農業への影響は計り知れないことから農産物価格低下や食料消費の変化を早急に把握し、人の交流が戻り農業者が安心して経営を継続できるように環境を整えること。

回答：農業振興課

新型コロナウイルス感染症に加え、世界情勢不安などの農業経営への影響は大きくなっています。特に米価については下落を続け、令和3年度の標準買取価格は前年度比約1500円下落となり、本市基幹作物であり多くの農家に大きなダメージを与えております。そこで売上が減少した米農家に対して「京丹後市事業継続支援給付金」として、予算を計上し、少しでも事業継続になるように考えています。今後、農業活動への影響があった場合は、国府補助金等を活用しながら、適切な助成をしたいと考えております。

また、新型コロナウイルスによる農業者への影響を把握し支援策の検討資料とするため、認定農業者を中心に昨年度、アンケート調査を行っています。今後も定期的にアンケートや聞き取り、国・府の支援施策の動向を見ながら、農業者の経営支援を継続していきたいと思っています。

4. 京丹後市産農産物の評価・流通における環境

魅力ある本市の農産物を国内外へ発信して認知度を高めるとともに、地域商社支援事業など新たな流通体制の強化や販路開拓は運営組織が計

画性を持つて進めること。

また、観光等との連携強化を積極的に推し進め、ブランド力の向上を図り、本市の農産物が売れる環境づくりを農家とともに整えること。

政策企画課や商工観光部と連携し、本市の農産物を活用したふるさと納税返礼品の拡充を図るとともに積極的にPRや情報提供を行うこと。

回答：農業振興課

令和3年度は政策企画課と連携した京丹後産食材ブランド創造事業を実施しており、一次産品の加工商品化や、市内産食材による都内高級料亭でのコース食事券のふるさと納税返礼品展開により、700万円を超える大きな実績となりました。令和4年度は予算規模を倍増した「京丹後食のふるさとづくり創造事業」を実施しており、政策企画課、観光振興課及び観光公社と連携しながら、食事券の成功モデルの横展開やふるさと納税を主眼に置いた商品開発のほか、農業体験ツアー企画による魅力発信・PRを目指して取り組んでいるところです。

